

資料編

第3学年1組 国語科（書写）学習指導案

指導者

展開場所 3年1組 教室

1 単元名 小筆で書こう～名前の練習をしよう～（教育出版）

2 本単元における言語活動

自分の名前の細部まで着目しながら書く。（関連：[思考力、判断力、表現力等] B（1）ア）

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語科に示されている下記の内容を受けて設定した。

第3学年及び第4学年の内容

〔知識及び技能〕(3) 我が国の言語文化に関する事項

エ（ウ）毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。

本単元は、小筆を用いて名前を練習する単元である。「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点」などの点画の種類や「始筆、送筆、終筆」などの書き方については、第1学年及び第2学年で硬筆等を使用して基礎的な学習をしている。ここでは、点画やその書き方が毛筆を使用する中で定式化してきたという点に着目し、毛筆による学習を通して点画や点画の書き方への理解を一層深めて書けるようにする。

内容の取扱いについての配慮事項〔知識及び技能〕に示す事項の取扱いカ（ア）には、「文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるように配慮すること」と記されている。本単元の名前の指導が、日常生活での書字の際にも生かされるよう配慮したい。

本学習は、中学校第1学年の「知識及び技能(3)我が国の言語文化に関する事項エ（ア）字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと」につながる。

(2) 児童生徒の実態（省略）

(3) 指導観

本単元では、自分の名前を書く際、点画の細部まで注目し、字形に気を付けて書く学習を行う。この学習を通して、自分の名前を大切にしようとする心情を育てるとともに、名前を丁寧に字形よく書くための知識、技能の向上を目指していきたいと考える。

児童の実態から、書写の授業を苦手としている児童、文字を書くことが得意ではない児童が一定数在籍しており、また、名前を書くことへの意識が全体的にあまり高くないことがわかった。そのため、本単元では以下の3点の手立てを講じて指導を行う。

①ゲストティーチャーを招く

名前は、一人ひとり異なるため、教師一人で指導するには多くの時間を要する。また、児童の名前への意識を向上させるためにもきめ細かな指導が必要であると考え。そのため、本時

では地域の方をゲストティーチャーとして招き、共に名前の指導にあたることで一人ひとりに合った指導を展開していきたい。

②水書用筆を用いる

学習指導要領によると、水書用筆は「扱いが簡便で弾力性に富み、時間の経過とともに筆跡が消えるという特性をもっている。その特性を生かして、『点画』の始筆から、送筆、終筆までの一連の動作を繰り返し練習することは、学習活動や日常生活において、硬筆で適切に運筆する習慣の定着につながる」と記述されている。また、「水書用筆を使用する指導は、第3学年から始まる毛筆を使用する書写の指導への移行を円滑にすることにもつながる」と記述されている。これらを踏まえて、本単元では水書用筆と水書用紙を使用する。水書用筆は、第2学年時にも使用しており、児童にとって馴染みのある教具でもある。そのため、多くの児童が意欲的に取り組めるのではないかと考える。また、水書用筆は本単元だけではなく、各単元の硬筆の学習時にも用いて継続的に学習することも可能である。

③学習用ソフト『ミライシード』のオクリンクを活用する

本学級の児童は、日頃から多くの場面でタブレット端末を活用している。水書用筆を使用した場合、乾くと自分の書いた文字が消えてしまうため、消える前に記録をする必要がある。学習用ソフト『ミライシード』のオクリンクの機能は、児童が日頃から様々な場面で使用しているソフトであるだけでなく、撮影や書き込み等が比較的容易にでき、カードとして画面に貯めることができる。また、複数のカードを比較することも簡単にできるため、自分が書いた名前の作品を撮影し、振り返るために適した機能だと考えた。

自分の名前という、生涯関わっていく文字について改めて考えることで、文字の点画や字形等の文字意識の向上、そして今回の学習が日常生活や学習での書字場面で活かされることを期待したい。

4 単元の目標

- ・小筆の使い方や自分の名前に出てくる点画について理解することができる。
[知識及び技能] (3) エ
- ・自分の名前の字形や点画の違いについて考えることができる。
[思考力、判断力、表現力等] B (1) ア
- ・自分の名前をよりよく書くにはどこに気を付ければ良いかを見つけたり、考えたりしながら文字を書いている。
[学びに向かう力、人間性等]

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
筆の使い方や自分の名前に出てくる点画について理解している。(3) エ	自分の名前の字形や点画の違いについて考えている。B (1) ア	自分の名前をよりよく書くにはどこに気を付ければ良いかを見つけたり、考えたりしながら文字を書こうとしている。

6 指導と評価の計画（全3時間）本時1/3

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 水書用筆を用いて、自分の名前の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 名前の大切さに気付くよう指導する。 指導者とゲストティーチャーで役割を明確にし、綿密に連携をとって名前の指導にあたるようにする。 文字の始筆、終筆、点画の細部等に注目し、練習するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の名前をよりよく書く方法を理解しているか確認する。 (知識・技能)【感想、発言】 自分の名前をよりよく書こうと考えながら、文字を書こうとしている姿を確認する。 (主体的に学習に取り組む態度) 【観察・作品】
	1	<ul style="list-style-type: none"> 硬筆で自分が書いた名前を友達と見合い、再度名前の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と名前を見合い、より良くするための方法を考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 名前の字形を整えて書くための方法を考えているか確認する。 (思考力、判断力、表現力等) 【作品、発言】
第二次	1	<ul style="list-style-type: none"> 小筆を用いて、自分の名前の練習をする。(書き初め) 	<ul style="list-style-type: none"> 始筆、送筆、終筆のポイントに気を付けながら書くよう指導する。 指導者とゲストティーチャーで役割を明確にし、綿密に連携をとって名前の指導にあたるようにする。 小筆の持ち方や姿勢について、初めに確認しながら学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 小筆の使い方や筆使いを理解して、書いているか確認する。 (知識・技能)【観察】 自分の字形を見直し、字形を整えて書写しようとしているか確認する。 (主体的に学習に取り組む態度) 【作品・観察】

※名前について常に意識できるよう、常時声をかける。

7 本時の指導

(1) 目標

- ・自分の名前をよりよく書く方法を理解することができる。 (知識及び技能)
- ・自分の名前をよりよく書こうと考えながら、文字を書こうとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価(観点)【方法】	資料
10 【見出し】	1 水書用筆と水書用紙を使って名前を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、水書用筆、水書用紙、ぞうきん、タブレット端末を机上に準備する。また、7つの班を作り、机を移動しておく。 ・書いた名前は、タブレット端末で撮影する。 	水書用筆 水書用紙 ぞうきん タブレット端末
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分の名前をよりよく書くためにはどうしたらよいだろうか。 </div>			
5	2 名前の大切さを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を掲示しながら、①みんな名前が異なること②名前は書く機会が多いこと③書写の作品において名前の善し悪しが作品の全体的な印象を変えてしまうこと④硬筆でも名前の丁寧さが大切になること、の4つに気付けるようにする。 	名前の資料
15 【自分で取り出し】	3 名前をよりよく書くためには、どうしたらよいか考えながら名前の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・とめ、はね、はらいだけではなく、傾き、長さ、字形等にも着目するように促す。 ・指導者とゲストティーチャーで、分担しながら児童の指導・助言にあたる。その際、「どこに気を付けて書いているか」を随時尋ねながら指導・助言にあたる。 ・作品は随時、タブレット端末で撮影する。 	水書用筆 水書用紙 名前の見本
10	4 学習問題に対する、自分	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の名前をよりよく書く方法を理解している。 (知・技)【発言】 ○自分の名前をよりよく書こうと考えながら、文字を書こうとしている。 (主)【観察・作品】 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末に自分の考えと感想 	

<p>【はげめる】</p> <p>5</p> <p>【まとめる】</p>	<p>の考えと本時の感想を書き、全体で共有する。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>を書くよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書くのに困っている場合は、今回どこに気を付けて書いたのかを書くように指示する。 ・書けた児童を数名指名し、発表するよう促す。 <p>○自分の名前をよりよく書く方法を理解している。(知・技)【作品・感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習でも名前に気をつけるよう声をかける。 	
--------------------------------------	---	--	--

1 単元名 筆順と字形（教育出版）

2 本単元における言語活動

筆順のきまりを守って書く良さについて考えたことを、筆順のきまりを理解する学習時に発表する。
（関連：[思考力・判断力・表現力等] A（1）ウ）

3 単元について

（1）単元観

本単元は、小学校学習指導要領の国語科の第3学年及び第4学年の次の内容を受けて設定した。

（3）我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。

（ア）文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。

（イ）漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

（ウ）毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。

本単元のねらいは、「筆順と字形」の関係を理解して、正しい筆順で字形を整えて書くことができるようになることである。筆順のきまりに従って書くと字形が整えやすくなる。『左』と『右』は、筆順の違いが字形の違いとして表れている典型的な例である。それぞれの「横画」「左はらい」の長さの違いに着目させ、一画目は指、二画目は腕を表しているので、筆順も外見も異なることをおさえることで筆順と字形の関係を理解し、常に正しい筆順で書く意識がもてるようにしたい。

本単元の目標は筆順と字形の関係の理解と技能の向上なので、それにしぼった授業を展開する。教材文字『左』と『右』の学習を経て、自分の名前についても、正しい筆順で字形よく書くことを意識させたい。こう筆の学習「筆順と字形」では、今までの硬筆学習の系統の中で繰り返し扱ってきた「筆順の三大原則」を応用し、部分と部分の組み立て方についても同じきまりで書くことを、四年生の配当漢字を例に確かめる。さらに、活用度が高いきまりとして「左はらいが先」「つらぬく横画があと」や、間違えやすい筆順についても扱う。筆順学習の動機づけとして、なぜ筆順通りに書くことが大切なのかを考えさせ、筆順は文字を合理的に書くために有効であるということを実感できるようにしたい。

学習指導要領における書写に関する事項は、（3）我が国の言語文化に関する事項のエに記載されている。その内容は、第1学年及び第2学年が、姿勢や筆記用具の持ち方など、文字や筆順などの基礎基本に「注意」しながら、丁寧に正しく書くことを指導する。第3学年及び第4学年では、文字の組立て方を理解させ、文字によって配列に「注意」しながら形を整えて書くこと、毛筆特有の注意も意識して書くことを指導する。第5学年及び第6学年では、今までの学習を生かし、目的に応じて筆記具や文字の大きさ、配列などを自ら決め、書く速さを意識し

て書くこと、毛筆指導についても穂先の動きと点画のつながりを意識させていくことを指導する。これらの学習が、中学校における「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く」学習へとつながっていく。

(2) 児童の実態 (省略)

(3) 指導観

本校では、昨年度より、書写の学習において、自分の名前を字形よく丁寧に書くことができるようにすることをめあての一つとして取り組んできた。今年度も、昨年度に引き続き、毛筆、硬筆ともに、名前を字形よく丁寧に書く意識をより強め、技能向上を目指していきたいと考えている。

児童の実態調査から、名前の書き方は難しいと感じている児童が多いことがわかった。同時に、毛筆でも硬筆でも、名前を書くときに気を付けていることがあると答えた児童が多く、中でも、バランスよく書くように気を付けていると答えた児童が最も多く、名前を字形よく丁寧に書こうという意識は育っていることもわかった。

正しい筆順で書くことは、字形よく書くことにつながる。また、字形のよい文字はバランスもよい。ここでは、自分の名前を正しい筆順で書けているかどうかをオンライン辞書等 ICT の活用を通して一人一人に確認させ、もし、間違った筆順で書いていた文字があったら、正しく書く練習をして、身に付けさせていく。そして、正しい筆順で字形よく名前を書いているかどうかを児童間で動画を撮り合い評価し合うことで、自分の名前を大切に思う気持ちや丁寧に書こうという意識をしっかりとらせていきたい。

4 単元の目標

- ・筆順と字形の関係を理解することができる。 [知識及び技能] (1) エ
- ・筆順の原則を理解することができる。 [知識及び技能] (1) エ
- ・筆順に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 [知識及び技能] (1) エ
- ・筆順に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 筆順と字形との関係について理解している。(3)エ	① 筆順と字形との関係について考えている。 B(1)ア	① 「左」「右」を筆順と字形に気をつけて書こうとしている。
② 筆順と字形に気をつけて書いている。(3)エ	② 筆順のきまりについて考えている。 B(1)ア	② 他の文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書こうとしている。
③ 筆順のきまりについて理解している。(3)エ		③ 他の書写場面でも、筆順のきまりに従って、字形を整えて書こうとしている。

6 指導と評価の計画（全4時間 本時4 / 4）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（観点）【方法】
第一次	1	○「右」と「左」はなぜ筆順が違うのか考える。 ○筆順と字形の関係を理解する。	○「右」と「左」はなぜ筆順が違うのかを考えさせ、文字の成り立ちが関係していることを理解できるようにする。	・筆順と字形との関係について考えているか確認する。（思考・判断・表現①） 【発表】 ・筆順と字形の関係を理解しているか確認する。（知識・技能①）【観察】
第二次	1	○筆順と字形の関係を確認し、字形を整えて書く。	○前時の学習を振り返り、「右」と「左」を正しい筆順で練習するよう伝える。 ○「左右」を正しい筆順で字形を整えて清書し、自己評価させる。	・筆順と字形の関係を理解し、字形を整えて書いているか確認する。（知識・技能②）【練習・観察】 ・筆順と字形の関係を理解し、字形を整えて書くようとしているか確認する。（主体的に学習に取り組む態度①） 【観察】
第三次	2	○筆順にはきまりがあることを知り、なぜそのようなきまりができたのかを考える。 ○筆順を確かめて、硬筆で字形を整えて書く。	○今まで学習した筆順の大きなきまり（原則）が、部分と部分の組み立て方にもあてはまることや、その他にもきまりがあることを説明し、なぜ、そのような原則ができたのか考えさせ、筆順のきまりの合理性を理解できるようにする。 ○書写ノートの課題を、筆順に気をつけて、字形よく書くよう伝える。	・筆順のきまりについて考えているか確認する。（思考・判断・表現②） 【発表】 ・筆順のきまりの合理性を理解しているか確認する。（知識・技能③） 【発表】 ・筆順を確かめて、硬筆で字形を整えて書いているか確認する。（知識・技能②） 【書写ノート・観察】 ・硬筆でも筆順を確かめ、字形を整えて書くようとしているか確認する。（主体的に学習に取り組む態度②） 【観察】 ・自分の名前を筆順のきまりに照らし合わせて
	本時 2/2	○名前の漢字に筆順のきまりを考えて数字	○正しい筆順で書けているかどうかをオンライン	

	<p>を入れ、オンライン辞書等で正しいかどうか確認する。</p> <p>○正しい筆順で字形を整えながら名前を書く。</p>	<p>漢字辞書等で調べて確認するよう伝える。</p> <p>○正しい筆順がわかったら練習させ、その後、隣同士で名前を書いている場面を動画で撮影し合い、相互評価するよう伝える。</p>	<p>正しいかどうかを判断しているか確かめる。 (思考・判断・表現②) 【ワークシート・観察】</p> <p>・正しい筆順で字形を整えて名前を書いているかを確認する。(知識・技能②) 【ワークシート・観察】</p> <p>・名前を書くときでも、筆順のきまりに従って、字形を整えて書こうとしている。(主体的に学習に取り組む態度③) 【観察】</p>
--	---	---	---

7 本時の指導

(1) 目標

- ・正しい筆順で字形を整えて名前を書いている。 (知識及び技能)
- ・筆順のきまりを考えながら名前の筆順を確かめている。 (思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援	○評価	資料
5 【はい出す】	1 筆順の大きなきまり、その他のきまりを確認する。	・「上から下へ」「左から右へ」「横からたてへ」「左はらいが先」「つらぬく横画があと」を発表させる。		教科書 ワークシート 黒板掲示資料
2	2 本時のめあてを確認する。			
	自分の名前を正しい筆順で書こう。			
5 【自分で取り組む】	3 筆順の大きなきまり、その他のきまりを考えて、自分の名前に筆順を書き入れる。	・予め書かせておいた名前の文字に、まずは、何も見ないで筆順の数字を入れさせる。 ○筆順のきまりを考えながら名前の漢字に筆順の数字を入れている。(思考・判断・表現②)【ワークシート】		ワークシート
15	4 名前の筆順が合っているかどうかを調べる。	・オンライン漢字辞書等で、筆順が合っているかどうかを確認させ、間違えている箇所		タブレット ワークシート 「井」「世」

5	5 名前を正しい筆順で字形を整えて書く練習をする。	<p>があったら、もう一度文字と正しい筆順の数字を書かせる。事前に「井」「世」「可」の筆順を間違えている児童がいたことを把握していたので、調べが終わった段階で、全体場で正しい筆順を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前のお手本を見ながら、字形を整えて2～3回書かせる。 	<p>「可」の文字</p> <p>ワークシート 名前のお手本</p>
10 【まとめあはる】	6 名前のまとめ書きをし、動画で撮影し、評価し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい筆順で字形を整えて名前を書いている。(知識・技能②)【ワークシート】 ・まとめ書きは二人1組になって書いている場面を動画に撮らせ、以前書いたものと比較して自己評価させると同時に、動画を撮ってくれた相手からも評価してもらうよう伝える。 	<p>ワークシート タブレット</p>
3	7 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体場で、代表児童に名前書きをさせ、正しい筆順で書けば字形も整えやすいことを確認させる。 	<p>TV タブレット</p>

四街道市小中一貫教育 学習マップ(国語)

前期(小1～4)

中期(小5～中1)

後期(中2～3)

週時数

【1年】9 【2年】9

【3年】7 【4年】7

【5年】5 【6年】5

【中1年】4

【中2年】4

【中3年】3

【知識及び技能】

言葉の特徴や使い方に関する事項

言葉の働き

事物の内容を表す、経験したことを伝える。

考えたことや思ったことを表す。

相手とのつながりをつくる。

相手の行動を促す。

話し言葉と書き言葉

音節と文字との関係、アクセントによる話の意味の違いに気付く。音聲や口形、発声や発音に注意し話す。

相手を見て話す・聞く。言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意し話す。

話し言葉と書き言葉の違いに気付く。

音聲の働きや仕組みについて、理解を深める。

話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。

漢字

第1学年は、指定されている漢字を読み、漢字書で、文や文章で使う。第2学年は、当該学年までに配当されている漢字を読み、第1学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使う。

当該学年までに配当されている漢字を読む。当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う。当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使う。

当該学年までに配当されている漢字を読む。当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う。当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使う。

小学校の漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字までの漢字を読む。小学校の漢字配当表の漢字のうち、900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使う。

第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度の漢字を読む。小学校の漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使う。

第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読む。小学校の漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使い慣れる。

語彙

身近なことを表す語句の働きを話し、文や文章の中で使う。文類には意味による語句のまとまりがあることに気付く。

様子や行動、気持ちや性質を表す語句の量を増し、話や文章の中で使う。言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解する。

様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使う。言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解する。

言葉や行為、心情を表す語句の量を増す。語句の辞義的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使う。

語彙的な意味を表す語句の量を増す。辞義語と対義語、同義語、類語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使う。

理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や慣用語などについて理解を深め、話や文章の中で使う。慣用語、慣用語などを使い分け

文や文章

主語や述語との関係に気付く。

主語と述語との関係、修飾と被修飾の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解する。

語句の並び方や順順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解する。

単語の種類について理解し、指示する語句と接続する語句の役割についての理解を深める。

単語の活用、動詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や関係など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深める。

話や文章の種類とその特徴について理解を深める。

言葉の違い

丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付ける。敬体で書かれた文章に慣れる。

丁寧な言葉を使う。敬体と常体との違いに注意しながら書く。

日常よく使われる敬語を理解し使い慣れる。

敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使う。

敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使う。

表現の技法

話のまとまりや言葉の働きなどに気を付けて話す。

文章全体の構成や内容の大体を認識しながら音読する。

比喩や反復などの表現の工夫に気付く。

比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解して使う。

文章を音読したり朗読したりする。

情報と情報との関係

共通、相違、事柄の順序などを理解する。

考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などを理解する。

原因と結果などを理解する。

原因と結果、意見と根拠などを理解する。

意見と根拠、具体と抽象などを理解する。

具体と抽象などについて理解を深める。

情報の整理

比較や分類の仕方、必要な語句などの書き出し、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使う。

比較や分類の仕方、必要な語句などの書き出し、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使う。

情報と情報との関係付けの仕方、因などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う。

比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について、理解を深め使う。

情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使う。

情報の信頼性の確かめ方を理解し使う。

我が国の言語文化に関する事項

伝統的な言語文化

昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞く。

長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付く。

易しい文語調の短歌や俳句を音読したり、暗唱したりする。

ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使う。

言葉の由来や変化

漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解する。

書 写

姿勢や筆記具の持ち

点画の書き方方、文字の形、筆順。点画相互の接し方や交わり方、長短や方向など。

文字の組立て方を理解し、形を整える。漢字や仮名の大きさ、配列。毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧に注意する。

読 書

読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。

幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く。

親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読する。

古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知る。

語句の由来などに関心をもつとともに時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言の違いを理解する。仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する。

用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決め、書く速さを意識する。毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識する。目的に応じて使用する筆記具を選び、特徴を生かす。

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付く。

音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読する。

古典には様々な種類の作品があることを知る。

共通語と方言の果たす役割について理解する。

字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解し、楷書で書く。漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文章を行書で書く。

読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解する。

作品の特徴を生かして朗読する。

現代語訳や語注などを手掛かりに古典を読むことを通して、作品に表れたものの見方や考え方を知る。

漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。目的や必要に応じて、楷書または行書を選ぶ。

本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かす。

歴史的背景などに注意して古典を読む。

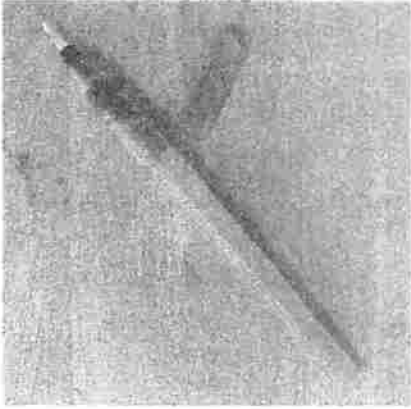
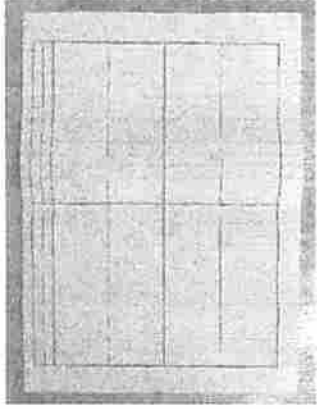



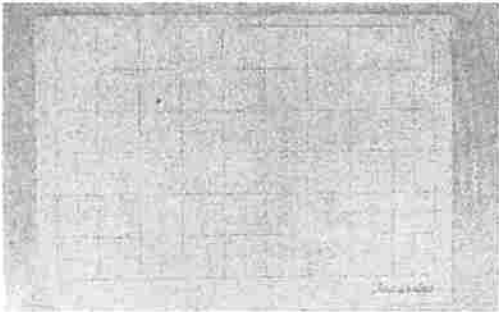
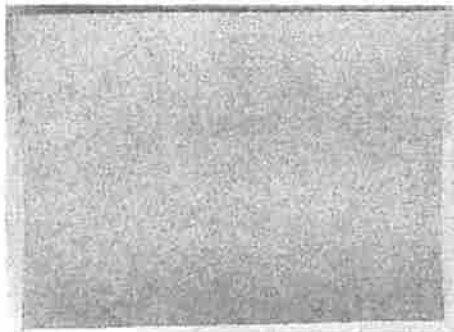
長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使う。

時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解する。

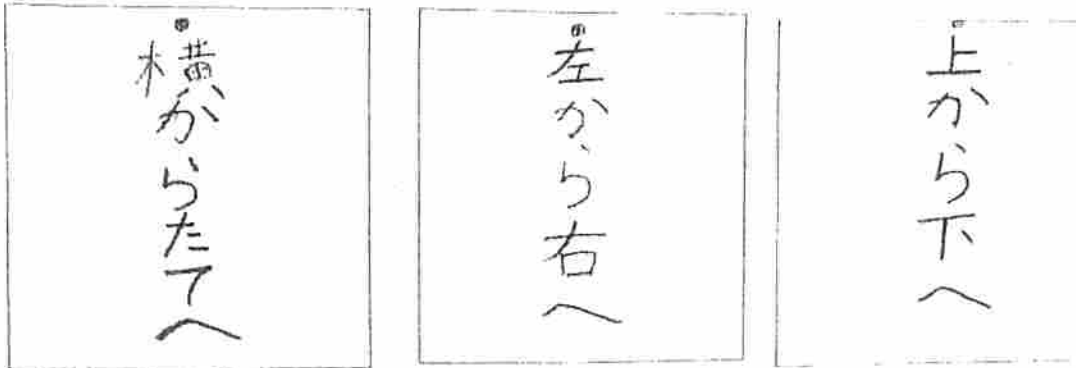
身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に書く。

自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効果について理解する。

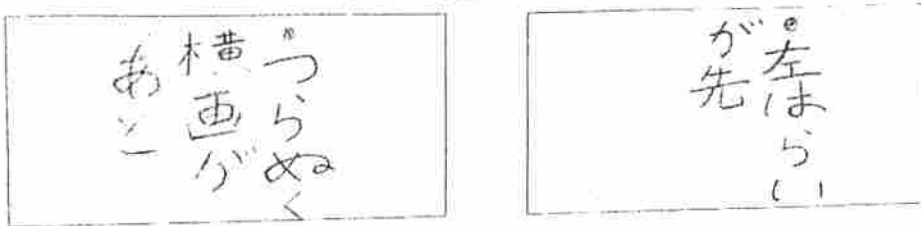
【水書用筆と水書用紙】

採用した筆	採用した用紙
 <p>理由：安価である。 毛筆に近い書き心地である。 水が入り、扱いが容易である。</p>	 <p>理由：安価である。 布製で丈夫である。 罫線が入っており、扱いやすい。</p>
検討した筆	検討した用紙
	
	 

筆順の大きなきまり



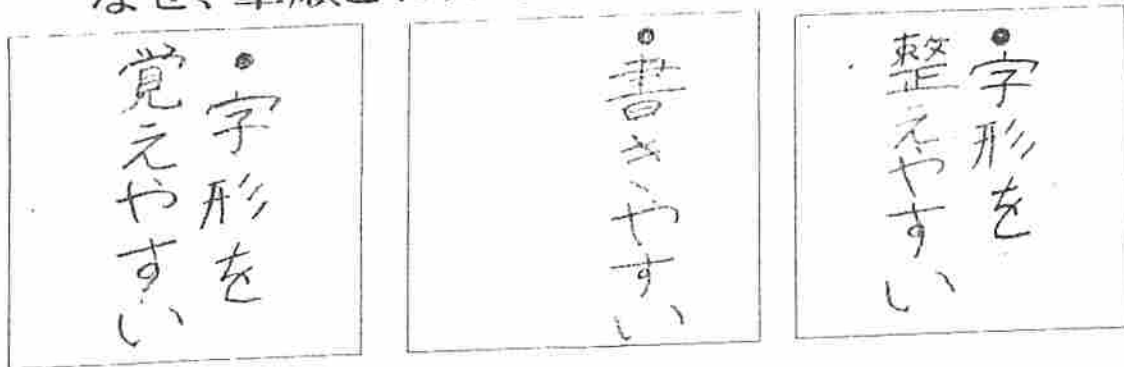
その他のきまり



なぜ、こんなきまりになったのだろうか？

上下、横たて、左右などのうごいている物のうごきがあるから

なぜ、筆順どおりに書くことが大切なのか？



丁寧に文字を書く指導

～入門期 1年生の平仮名指導を通して～
五部会

【1学年 4月】

【平仮名指導】 字を書くことの一例

- ①音読をする。
『あいうえおうさま』 寺村輝夫作
- ②「あ」のつく物、「あ」のつく人
- ③字形の確認
- ④文字体操
- ⑤文字の練習

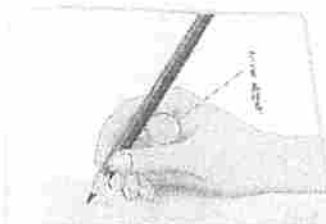
【入門期（1年生）で指導するべきこと】

- 1 正しい姿勢（ぐう べた びん）
※下敷き 字を消すとき
- 2 正しいえんぴつの持ち方
- 3 字形をよく見る
(1の部屋 2の部屋 3の部屋 4の部屋)

正しい姿勢



えんぴつのもちかた



平仮名学習の様子 えんぴつの持ち方

えんぴつの持ち方 事例1 Aくん

○4月 えんぴつの持ち方が、正しい状態 ほとんど上手く使えない
1冊間に3本～4本折れてしまう。

※毎日の平仮名学習

○7月 えんぴつの持ち方が、少し良くなって来る。

えんぴつが折れなくなり、スムーズに
※楽しくひらがな学習を行っている。



※くるくるまわり（色塗りの字練習帳）

字形を捉える

～文字に興味を持たせる～

- ①黒板に大きな文字を書き、文字がどんな形、どこを通っているかを話し合い、確認する。
- ②『あ』のつくもの 『あ』のつく人
- ③文字の体操～体を使って、字形を捉える～
- ④文字を練習する。よく見る。なぞってみる。点々をなぞる。一人で書いてみる。

ひらがな指導 様子 (7月)

【成果と課題】

【成果】

- 繰り返し同じ音素用紙で行うことで、入学して馴染めない児童も、授業の進め方がわり、安心して授業に参っていた。授業を覚悟することで、言葉の学習、毎日練習になった。
- 1学期の中で、必要ないろんな学習を行うことで、集中力が養われ、授業した意欲的な学習になった。
- 色塗り「くるくるまわり」をすることで、手紙の書きが楽らくなり、どの子も、明らかに文字を書くことが出来るようになってきた。
- 字形を字順にとらえることで、「点画のつながり」「文字の組み立て方」など文字一文字一文字に着目することができた。

【課題】

- 字形を覚悟したとあるようだが、ノートに文章として書くとき、字目して書けた文字とは、異なってしまう。
- 近頃は、手本がないからであるとか、字種の課題もあり、実践していく。
- 字形を覚悟することは、かなり個人差がある。まずは、字形覚悟での気づきや話し合い、教師の指導が必要であるとは思うが、後の力を伸ばす手立ても考えていく。